

[平成 17 年度第 6 回 MISA 人材・技術委員会向け資料]

平成 17 年度実施(平成 17 年 4 月 4 日～ 6 月 3 日)

新人研修(認定職業訓練)に対する受講者の感想

(受講企業および受講者ヒアリング調査結果報告)

(公開版)

平成 17 年 9 月 29 日

社団法人宮城県情報サービス産業協会 人材・技術委員会

平成 18 年度向け新人研修企画部会

1. ヒアリング結果の全体総括と来年度以降への示唆

全 39 日・助成金適用後受講料 365,000 円

| | 項目 | 受講企業の主な意見等の要点 | 運営側総括及び想定される対策 |
|---|--------------------|--|--|
| 1 | 全般の印象と来年度以降の継続に関して | <ul style="list-style-type: none"> 全般として、成果が出ている旨のコメントが多かった。昨年度に比べ、講師や研修内容に関する批判的意見よりも、より前向きな改善点や提案的意見を多くいただいた。 ヒアリング企業 8 社は全て基本的には来年度も引き続き受講・活用したいという意向があり | <ul style="list-style-type: none"> 全般として研修の評価は高くその役割も果たしているといえる。また、昨年度の改善点の反映も伝わっているといえる。 MISA の役割としても来年度も引き続き開催することが求められるといえるため、開催に向けて尽力したい。 |
| 2 | 研修全体の考え方に | <ul style="list-style-type: none"> 即戦力養成ではなく、将来に渡るシステムエンジニアの養成コースとしての思想は受講企業にも十分伝わっており、受講企業の期待ともマッチングしている。 受講者の交流やそれによるコミュニケーション力などヒューマンスキルの向上に関する期待は数社において指摘があった。またその期待も極めて大きい。 受講者の横のつながり、縦のつながりに関する期待も多い。 | <ul style="list-style-type: none"> MISA 研修の思想や基本的な考え方などは昨年度に検討しており、各企業が考える人材像や方向性とも整合しているといえる。従って来年度も基本線は変更する必要はないと思われる。 MISA として新人研修を行う最大の意義は、協会企業の受講者相互の交流やチームワーク、刺激などにあるとあって良い。来年度の大きな課題は、こうした側面をもっと強く意識したカリキュラムにしていけることではないかと思われる。 |
| 2 | ビジネス基盤養成 | <ul style="list-style-type: none"> 本コースに対する評価は昨年度以上に高く、成果も十分にしている旨のコメントが多かった。 昨年度ヒアリングで指摘のあったプレゼンテーションや IT 業界のイメージを形成する内容の研修は今年度新たに取り入れ、概ね好評であった。 ヒアリングの中では、ディベートや図解、プレゼンテーション、e-mail マナーなどの更なる充実の要望があった。 e-mail のマナーは昨年度のヒアリングでも出ていた内容であるが今年度は反映できなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> 研修カリキュラムとしてはほぼ確立できているといえる。 7 日間という日数の制約の中で、全てを盛り込むのは難しいものの、カリキュラムの中にミニ演習等で要望のあった内容を取り入れることで対応したい。 |
| 3 | IT 技術基盤 | <ul style="list-style-type: none"> 経験 / 未経験の分割、研修内容の絞 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的なロジックなど本質の部分を基盤養 |

| | | | |
|---|-------------------|--|--|
| | | <p>り込みやストーリー性を持たせること、Oracle データベースの盛り込み、研修担当者への状況報告など、昨年度ヒアリング時の改善要望は今年度反映しており、受講企業の評価も良好であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全般に「学校でできないこと」の内容に対する要望が強い。技術テーマではネットワークやインストールからの演習、データベースの概念などに対する評価が高かった。 ・ テスティングや品質、ワーク手法など開発手順に関する内容が弱かったといえる。この面は昨年度ヒアリングでも指摘を受けていた内容であり、来年度に向けて大きな課題である。 | <p>成として学習する、という思想はそのままに、課題演習を工夫すべきと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度はプロジェクト的内容は「オブジェクト開発コース」に譲り、とにかく「手を動かしモノづくりができる」という趣旨で演習を行ったが、来年度は本コースに関しても企業の期待の大きい開発手順的な内容がある程度反映させたものにしたい。 ・ テーマ自体は必ずしも業務系である必要はないと思われるが、未経験者コースでも課題演習を設定し充実化を図りたい。開発計画書などドキュメントの作成や中間レビューなど基本的な開発手順を体感できるものにしたい。 ・ 企業側の要望に十分に応えるための講師調整等の負荷は極めて大きい、何とか調整し、3年目の来年度で MISA 技術研修のスタイルを確立できれば良いのではと考える。 |
| 4 | オブジェクト指向開発 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習のテーマ技術自体に関しては、特に要望はなく「何でもいい」あるいは「Java でもう少しじっくりと」というのが各社共通の意識である。 ・ 各社での期待は技術習得よりもやはり「開発手順の体験とそれによる実務や OJT へのスムーズな移行」にあることは明確である。 ・ 成果発表会に関しても、それまでのプロセスなどを含めた発表会にすべきである。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は Java 研修のおまけで課題演習を行った側面もあった。来年度は習得技術自体はある程度絞りこんだ上で、課題演習主体のカリキュラムとしたい。 ・ 業務系課題演習はそのままに、他社との混合グループへの変更、受講者間のスキル格差を前提としたプロジェクトとしての役割明確化の指導、プロジェクト計画や品質目標あるいは中間レビューなどを取り入れ、これに伴うドキュメントも作成し成果物として発表できるように改良したい。 ・ 各企業の期待に応えるためには研修としてもかなりの企画力を要するもので本来研修事業者はあまりやりたがらないものである。MISA 研修ではスキルの高い講師であるので、それを活かして何とか要望に応えられるようにしたい。 |
| 5 | 運営面での改善提案（各コース共通） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度ヒアリングの改善点として大きかった電子メールでの経過報告は今年度実施し好評であった。 ・ よりキメ細かい状況把握としてブログの開設など具体的な提案もあ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 経過報告は運営側として極めて大きい負荷がかかることは理解いただきたい。但し重要な役割であり、フォローアップにも不可欠であると認識する。 ・ ブログあるいは Web グループウェアの活 |

| | | | |
|---|------------|--|---|
| | | た。 | 用に関しては、取り組んでいきたいと考えている。 |
| 6 | 他企業との交流 | <ul style="list-style-type: none"> チームでの課題演習に関する他社との混合化、半年後のフォローアップ研修の開催、懇親会の開催など他社受講者との相互交流の充実化要望は各社から多く出された。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題演習は基本的に全て混合グループ化とし、チームワークやコミュニケーション、役割分担など実務での側面スキルも含めて体得できるところを前面に出したい。 「ビジネス基盤コース」終了後、成果発表会終了後などに事務局側主催の懇親会を開催し、受講者の相互交流を促したい。 卒業生による講話、半年後のフォローアップなども開催する方向で検討したい。 |
| 7 | 来年度想定される課題 | <ul style="list-style-type: none"> 認定職業訓練補助金の減額 宮城県の緊急雇用対策の特別枠助成金（情報産業振興室）がなくなり、認定職業訓練一本の補助になる見込み。補助金は7割程度になる見込み。 定員の超過 特に人気の高い「ビジネス基盤養成」に関しては、ヒアリング企業の全社から受講の意向を受けており、他社も含め定員超過の可能性もある。 | <ul style="list-style-type: none"> 補助金の減額に関しては、受講料に転嫁せざろう得ないが、まだ利用実績のない認定職業訓練の受講企業向け補助金の利用促進（フォーマット等の提供）などを強化し影響を最小限にしたい。 大幅な値上げにならない限りは内容充実を優先すべきと思われることから、内容面での強化にあわせて来年度での訓練体制の確立を目指して尽力したい。 定員の超過に関しては、第一次募集の状況を見て判断する昨年度形式を今年度も行い、早めに状況を把握できるよう配慮したい。 |

2. ヒアリング結果（生データ）

ヒアリング実施体制：

MISA 人材・技術委員会（新人研修部会）

佐々木（東北システムズ・サポート）、渡辺（エス・ビー・エス）

庄子（NAViS）、池田（元新人研修部会・昨年度企画メンバー）

菊地（アイソリューションズ（オブザーバ参加））

MISA 事務局 原田

実施期間：2005年9月1日～9月8日の期間における訪問ヒアリング調査

対象全14社中、人材・技術委員会メンバー企業及び1コースのみの受講企業を除く8社を訪問

調査対象：代表・役員クラス、研修担当者クラス、受講者の3者（会社により異なる）

対象企業

日時：2005年9月2日（金） 9：30～10：30

今年度受講生数：2名（ビジネス基盤/IT技術基盤（未経験者）経験者のみもう1名）

出席者：

・教育担当マネジャー1名

・MISA：佐々木（東北システムズ・サポート）、庄子（NAViS）、原田（事務局）

1. 研修派遣の動機

- ・これまでの新人研修は東京で外部研修に参加させていたが、長期出張となり経費面での負担が大きかった。
- ・当社は、本社は東京であるが仙台は独自で採用しており勤務地も原則仙台である。したがって研修を受ける上で、MISAの他企業受講者との人間的な交流に対する期待もあった。

2. 今年度実施研修の評価に関して

- ・まず、チームでの開発演習はとても良かったと思う。
- ・言語に関してはしいて選べばCとPHPは良かったと思うが、基本的には言語にしばられるのではなく、アルゴリズムなど作り方をしっかり学習できるという考え方で良い。言語が変わっても考え方は基本的に一緒である。
- ・特に Oracle データベースは現在の業務でもかなり役に立っている。DB の概念などをしっかり学習してきた成果であると思う。
- ・内容的にはもっと幅広い技術分野を網羅してもいいくらいであり、カリキュラムが様々な技術により構成されている点は問題ないのではないか。

3. MISA 教育のあり方に関する意見等

- ・基本的な考え方として、基礎をしっかり定着させることを重視すべきと思う。基礎がしっかり出来てしまえば、現場でめげずに仕事や学習に取り組めるのではないか。
- ・実際に現場で教えながら基礎をつくるのは、教える側でも時間が取られてしまい、負担であると思う（研修の意味もここにあるのでは）。

4. その他

- ・「オブジェクト指向開発」を受けさせなかったのは、たまたま仕事が控えていたのでOJTにしようとしたためである。

対象企業

日 時：2005年9月2日（金） 13：30～14：30

今年度受講生数：2名（全コース・未経験者）

出席者：

- ・教育担当マネジャー1名、受講者1名
- ・MISA：佐々木（東北システムズ・サポート）、庄子（NAVIS）、原田（事務局）

1. 研修受講追加の動機

（昨年度は「IT技術基盤」までの受講）

- ・昨年度はたまたま事前スキルのある人材を採用したため一部受講にしかたけであり、単なる初期レベルの差である。したがって今年度は全コースを受講させた。

2. 今年度実施各研修の評価に関して

（ビジネス基盤養成）

- ・電話対応など、いざ使おうとした時に今でも役に立っていることがあるので、学習できてよかったと思う。

（IT技術基盤コース）

- ・C、PHPとやったが、Cと他の言語との比較などもできてよかったと思う。

（オブジェクト指向開発（課題演習））

- ・まず演習を自分達で行い、自分達の力で成果物を作り上げられたのがよかった。

（全体として）

- ・全体として期間的にもちょうどよかったと思う。電子メールでの状況報告も様子がわかって大変よかった。
- ・週1回研修の都合を見て帰社させて状況等を把握していたが、順調だったと思う。

4. MISA教育のあり方に関する意見等

- ・もう少し他社受講者との交流が持てればよかったと思う。新卒で入ってきて、社員という意識のない時期に同じく苦労し学んだ同期の仲間をつくれることは、その後においても糧になるのではないか。

5. 研修に関する提案等

- ・今年度の「宮城県 IT 技術者就労支援事業」では、研修中の様子が企業側にもわかるように「ブログ」を活用しているが、講師や受講者本人の様子などもリアルに伝わりとても良い。MISA 研修ではセキュリティやパスワード等の問題はあるかもしれないが、取り入れてみたらどうだろうか。
- ・（来年は補助金が減らされる可能性もある点に関して）別の形での認定申請ができればありがたいので、フォーマットを準備いただくなどの支援があれば尚ありがたい。

6. 来年度の計画

- ・来年度も新卒を数名採用する予定であり、引き続き MISA 研修に出そうと思う。

対象企業

日 時：2004 年 9 月 1 日（水） 10：00～11：30

今年度受講生数：1 名（全 3 コース受講） 昨年度も 2 名で受講・ヒアリング済み

出席者：

- ・研修担当者マネジャー 1 名、研修受講者 1 名
- ・MISA：庄子（NAViS）、原田（事務局）、池田（元委員会委員）

1. 研修派遣の動機

- ・昨年度も受講したが、広く新入社員に必要な知識を網羅しており、引き続き今年度も受講させることにした。
- ・ビジネスに必要なスキルを基盤として養成できる点、技術系ではどこまでできたのかを確認することによって得意・不得意が見えてくる。広くホットな内容をやっている点も引き続き派遣した動機である。

2. 受講者の今年度実施各研修の評価に関して（経験者コース・浅野講師）

- ・技術系研修では、特に例えば「エラーメッセージの読み方」やどうやって技術を学習していくのか、といった学び方を吸収できたのが良かった。
- ・ベースの部分で自分がどういうレベルなのか、一回研修を受けた方が把握でき、その後の実務も入りやすい。

- ・ 社会人としての常識や技術資格等に関して喫煙スペースでの講師との談話などから良い話も聞けたので、かなりためになった。

3 . 今年度実施各研修の改良点に対する意見

- ・ IT 技術基盤、オブジェクト指向開発共に、成果発表会は成果物だけでなくしっかり手順を踏んで作ったかどうかを発表させる場にした方が良い。
- ・ 課題演習自体に関しては、ウォータフォール、オブジェクト指向など一般工程を踏まえた進め方を主体に習得できると良い。チーム内での受講者レベルの格差はルールを決めるなりすると、仕様のやり取りなども含めて分担もスムーズに行くのではないか。
- ・ 品質に関しても ISO9001 スタイルあるいは CMMI など品質の考え方を取り入れ、記録やレビューなど段取り（手順）を踏んでできれば尚良い。

3 . 研修受講後の様子・会社としての技術ドメインなど

業務の手伝い

- ・ 研修後はソフトウェアの開発だけでなく、ハードウェアの性能評価なども行っている。
- ・ 現在の会社の売り上げ比率としては業務系ソフト開発が多いが、Web も組込も行っている。（今年度の受講者に関しては）将来的には組込の仕事に従事させたいというキャリアプランは持っている。
- ・ 組込系でのマスタするポイントなども研修があればなお良いが、研修企画者側では全体を見る必要があると思うので、ぴったり合えばなおうれしいとは思う。

4 . その他

技術研修全体を振り返って

- ・ 全体の言語体系のキーワードなど技術全体を見渡せることは必要と思う。経験を積みリードになっていく際にも次の目標を自覚し学習しながら業務を遂行できると考える。

品質・テスト的な要素が今年度弱かった点に関して（議論の中での主要点）

- ・ 品質からのプログラム設計や組み立て、という考え方も良く、テストできないようなプログラムではだめ、であるということや仕様の作り方などを中心に据えても良いのではないか。
- ・ 最後のコース（オブジェクト指向開発（業務系開発演習））はどうしていくのか、テスト等々の要素を強く取り入れるのか、新人研修としてどこまでやるのかなどの検討が必要ではないか。

5 . 来年度の派遣予定について

- ・ 来年度は2名程度の採用を予定しており、今年度同様に MISA 研修に出したいと思って

いる。

対象企業

日 時：2005年9月2日（金） 11：00～12：00

今年度受講生数：2名（全コース・未経験者）

出席者：

- ・取締役1名、受講者1名
- ・MISA：佐々木（東北システムズ・サポート）、庄子（NAVIS）、原田（事務局）

1. 研修派遣の動機

経緯

- ・ 当社は客先派遣形態での業務が多いため、従来は派遣勤務先での新人研修（東京での取引先の研修）に参加させていた。
- ・ 東京の研修では宿泊等の経費がかさむこともあるが、新人研修に関しては何よりも現場のニーズと経営陣が期待する研修に相違があることも大きい。経営陣としてはヒューマンスキルなどを重視したいが、現場は即戦力として言語知識を期待している。この相違は仕事を行う上でのバランスとして捉えている。

受けさせてみての印象

- ・ 受けさせてみて、特に他の受講者とのコミュニケーションを取る機会が多かったことが最も良かった点である。地元企業として、将来に渡る人間関係を形成するということに対する期待も大きい。
- ・ ある程度の期待成果も得られたと思う。人間関係や仕事の進め方、そして教えることが目的の学校にはない、自分で考える力を養えたのではないかと思う。OJTでも先輩への聞き方やそのタイミングなど必要であり、こうした一般マナーをしっかりと体得できたことが何よりの成果ではなかろうか。

2. 受講者からみた今年度実施各研修の評価に関して

- ・ 全般に期間はあっという間に過ぎたと思う。養った基礎の力は会社に戻ってからも活かしていると思う。

（ビジネス基盤）

- ・ 実務でも特に電話対応などは実業務でも直接的に役に立っている。

（IT技術基盤（未経験者））

- ・ 三苦講師は質問もしやすく、とてもよかった。内容面では現在の業務はJavaスクリプトやVBであることもあり、しいて言えば研修の中にJavaスクリプトがあればもっと良か

ったかもしれない。VB に関しては C 言語でしっかり基礎を作ったこともあって、違和感なくこなすことができている。

(オブジェクト指向開発)

- ・ 井本講師は質問にもしっかり答えてくれ、頼りやすかったと思う。特に現場のノウハウなどを適宜交えてくれたのでとても説得力があったと思う。
- ・ 課題演習に関しては物理的に構築する時間が足りなく、完成度の面でも意見が分かれるものであった点が残念である。
- ・(研修後の実務を振り返ると) 詳細設計書の作り方などもっと学習してもよかった。

3 . 新人研修に対するその他意見等

- ・ 専門学校を出ても、2 年コースくらいの場合はプログラムを製作しなさい、といっても製作できないのが通常である。定着のためには中間のレベルをしっかりやっていくのが最も望ましいのではないか。
- ・ 研修で学んだ知識や技術がそのまま実務の即戦力になる必要性は必ずしも感じない。実務を経験していけばいくほど教育とは違った技術の習得等も必要になる。今年度の受講者の中のもう 1 名はその後汎用機系を担当し MISA 研修後に COBOL をやっている。
- ・ 即戦力よりもむしろこういう技術があって自分はこれを目指そう、というような意識を高めることが最も大切なことの一つであると思う。

4 . 来年度への提案等

- ・ 開催期間はちょうど良いのではないか。研修実施後に OJT や別研修を入れる上でも 2 ヶ月くらいがちょうど良い。
- ・ 後のフォローアップとして意識を高めるための研修などを開催しても良いのではないか。受講者との交流もあり目標や意識を高める場としても有効であると思う。

5 . 来年度の受講に関して

- ・ 来年度は仙台配属の社員は MISA 研修に出したいと思っている。今年度プラス くらいになる見込みである。

対象企業

日 時：2005年9月9日（金） 10：00～11：00

今年度受講生数：7名（全3コース受講・未経験者）

出席者：

- ・取締役1名
- ・MISA：庄子（NAViS）、原田（事務局）、菊地（アイソリューションズ）

1. 昨年度に比べての感想・印象

（ビジネス基盤コース）

- ・ビジネス基盤コースは昨年度同様に十分な成果が出ていると思う。早速現場でも活かされており、違和感なく実務に入ることが出来ている。

（IT技術基盤、オブジェクト指向開発）

- ・グループでの課題演習は別々の会社のメンバー構成で出来たらもっとよかったと思う。
- ・（運営側での）人数のバランスもあるかもしれないが、自分の会社だけだと各人の個性なども浮き出て来ない感じがする。
- ・内容的には本人達（受講生）ももう少し勉強しないと難しいと思ってはいたので、フォローはより強化してもらいたい。

2. MISA研修のあり方に関する意見・来年度の要望等

- ・専門学校卒、高卒、大卒でも意識が違うと思う。ものの考え方の幅を広く持ち、やり取りさせる工夫があればより受講生の意識も変わると思う。
- ・当社自体はまだ汎用機がベースになっている業務が多く、今年度受講生でも分散系は2人だけで、後の5人は汎用機系の実務に就いている。但し新人に最初から汎用機の研修を行いたいとは思っていない。研修では例えば論理思考などのスキル、そしてテストングや品質面、基本動作としての業務でのルール化や標準化など決められた手順を守ることの大切さなどを体得できれば良いと考えている。会社としてもこうした基本を定着させていくことは重要であると考えており、新人のときから体得してもらいたいと思う。
- ・プログラム開発では、例えばレビューを入れて手順を守っているかどうか、あるいはコードレビューをやってテストのシナリオを描き結果がOKだったかどうかなど、全体としてのルールがあることをしっかり学習してもらえればよいと思う。バグを出したときに直すのではなく完了基準を決めて業務を推進できるようになればいいと思う。特に分散系の開発ではこうしたことが守れないといけないのではないかと。

5. 来年度の計画に関して

- ・昨年度はMISA研修を利用するのか、親会社の意向に従って東京の研修にするのか定

まっていなかったが、MISA 研修はしっかりした成果が出ていることもあり、安心して任せられる研修であるという認識も既に持っている。今年度正式に東北ディー・シー・エスとしての新人研修は MISA 研修にすることで承認を得ており、来年度以降も引き続き受講生を出したいと考えている。現在のところ人数は 6 名～8 名程度になる見込みである。但しディー・シー・エスグループ全体としてのセッション講義はあるので、カリキュラムの中で 1 日程度あらかじめ欠席となることを前提として対応いただきたい。

対象企業

日 時：2005 年 9 月 6 日（火） 16：30～17：30

今年度受講生数：1 名（「ビジネス基盤」「IT 技術基盤（経験者）」のみ受講）

出席者：

- ・代表取締役 1 名、研修受講者 1 名
- ・MISA：渡辺（エス・ビー・エス）、庄子（NAViS）

1. 研修派遣の動機

- ・今年度新たに新卒を採用。昨年度は「ビジネス基盤養成」だけだったこと、今回採用者はある程度の前提技術を有していたので最初は OJT でもいいかと思ったが、技術系にも出してみることにした。

2. 受講者からみた今年度実施各研修の評価に関して

（ビジネス基盤養成）

- ・最初の基礎的なことを学習できたのがよかった。仕事を始めて一通りのことをそれなりに知ることの意味を感じている。もっと期間があっても良いくらいである。
- ・もう少し電話対応の内容があっても良かった。
- ・受講者間での交流の場が少なかったので、もっと交流やコミュニケーションの出来る場があっても良いのではないか。

（IT 技術基盤）

- ・既にある程度のスキルはあったが、自分の分からないところが分かったというのが最大の糧である。
- ・グループ演習では周囲の人に頼ってばかりいたこと、何して良いのかわからなかったというところがあって少し残念だった。グループの中に出来る人がいると自分のスキルが腐ってしまう。

- ・ 現在の実務は VB での開発であり、むしろ研修のほうが難しかったと思う。研修ではもう少し技術文書の作成など実務面での内容が充実していればなお良かったと思う。
(テキストの分量、研修後の社内活用やフォローなどに関して)
・教材分量は多かったが、定評ある適切なテキストを考えて選んでいると思う(社長)

3 . MISA 教育のあり方に関する意見等

- ・ MISA 研修に出す一番の意味は横のつながりである。MISA の他企業との受講者の交流は最大の糧ではないか。
- ・ 当社の業務自体は VB がメインのため研修内容は直接的には不要であるが、あえて受けさせた。業務で使わなくとも世の中の新しい技術を頭の片隅に置いておくことによって、勉強でも実務でも抵抗なく取り組めると思う。

4 . 来年度への提案等

- ・ 費用面は十分に安いので問題ないと思う。
- ・ ビジネス基盤に関しては、ディベート、メール文書、敬語などをもっと取り入れ、ビジネスでの苦手意識をなくすことができれば良い。
- ・ プレゼンテーションに関しては、1 日しかなかったので、期間も含めもう少し長くとも良かったと思う。図解 (図で考える) などの内容も含まれれば尚良かった。
- ・ IT 技術基盤に関しては、C 言語で何かをつくるのは良いが、人のプログラムの追いかけ方や比較などもあれば良い。

5 . 来年度の計画

- ・ 来年度は 4 名の新卒採用を予定している。来年度は「ビジネス基盤」だけにすることを考えているが、経験者コースのプログラム技術演習の充実によっては考えてみようと思う。

対象企業

日 時 : 2005 年 9 月 1 日 (木) 11 : 00 ~ 12 : 00

今年度受講生数 : 4 名 (全 3 コース受講 ・ 経験者 2 名、未経験者 2 名)

出席者 (敬称略) :

- ・ 代表取締役 1 名、研究開発マネジャー 1 名、研修派遣担当マネジャー 1 名
研修受講者 1 名
- ・ MISA : 庄子 (NAViS)、原田 (事務局)、池田 (元委員会委員)

1 . 今年度実施各研修の評価に関して

(昨年度と比較して) 良かった点

- ・まず良かった点は（運営面で）受講者の状況を定期的にメールで報告してくれたことである。
- ・経験者、未経験者の2コースに分けたところも概ね良かったと思う。

研修の内容に関して（受講者・研修担当者双方の意見の主要点）
（ビジネス基盤コース）

- ・「ビジネス基盤養成」コースは特に問題もなく良好。成果の面でも十分満足している。

（未経験者コース）

- ・CとPHPの2つがカリキュラムに入っているが時間が足りない。どちらかに集中した方が未経験者には良い。
- ・研修期間に比して内容が盛りたくさんで少々しんどい。基本になる考え方や言語をどう使うか、などの説明がもう少しあればよかった。本は読めば分かるが実際に作ってみてどうか、が重要であり、言語は何のためにあるのかを理解し一つをしっかりと習得できれば良いと思う。
- ・Oracleは（今年度から入ったが）良かった。

（経験者コース）

- ・C、PHP、Linuxと実施したが、いずれも当社の受講者にとっては知っている内容ばかりだったので、募集時にレベルのガイダンスを行っていただきたい。
- ・研修の進め方の面ではテキストを読んで進むだけでなく、プラスを重要に。
- ・ネットワーク管理は（学校で一切学習して来ない内容なので）実習を含めて充実した方が良い。社内ネットワークの管理などにも活かすことができる。
- ・講師に質問し保留したものの後で回答がない、などもあったので改善願いたい。

（オブジェクト指向開発）

- ・UMLに関しては、説明不足な面が一部見られる（教科書を読めばわかる）部分もあり、もっと考え方や設計手法などに時間を割く方が良い。
- ・課題演習に関しては、時間不足（ボリュームが多い）な面もある。サブシステムとして多くの画面を作っている反面、個々に実装されたモジュールはブア（不十分）な側面も見受けられた。
- ・（.netの方が良かったのでは？という質問に対して）.netなどは次のステップでやれば良く、素のJavaに時間を取って集中した方が良い。イベントドリブン環境への理解、Visualな部品を作るといった内容もあった方が良い。
- ・プロジェクト管理をかじったような、開発プロセスをまとめるようなチャートなどもあれば良い。

2 . MISA 教育のあり方に関する意見等

- ・ 研修全体の考え方として、最低限の骨になる部分、すなわち考え方の部分をしっかり習得できれば、言語は何でもいい。基本的なフローチャートなどどう考えればいいのか、など雰囲気も含めて体得することにより、実務にも生きてくる。
- ・ アルゴリズムとプログラミングの関係も肌で知ることが重要であり、アルゴリズムを考え、コーディングを行い、どう動くかというプロセスを体得して逆算して考えられるようになることは重要である。

3 . 来年度の研修への提案

- ・ ちょうど今頃（半年くらい経って実務に慣れた頃）に1日くらいで受講者が集まり、フォローアップ的な講座があればいいのではないかと。計画的にしっかり仕事をする意義や手法といった内容が考えられる。受講者交流会（懇親会）もやれば受講者同士の刺激にもなるのではないかと。
- ・ 研修期間中にももう少し受講者の横のつながりを持てる懇親会のようなものがあれば良かったのではないかと。

4 . 来年度の派遣予定について

- ・ 来年度は数名の採用を予定しており、採用者の事前スキルも考慮しながら今年度同様に MISA 研修に出したいと思っている。

対象企業

日 時：2005 年 9 月 6 日（火） 18：00～19：00

今年度受講生数：2 名（「ビジネス基盤養成」、「IT 技術基盤」経験者）

出席者（敬称略）：

- ・ 主任技師（研修派遣担当者）1 名、研修受講者 1 名
- ・ MISA：庄子（NAViS）、渡辺（エス・ビー・エス）

1 . 受講者派遣の動機・受けさせてみての全体印象

- ・ 新人研修として外部研修を利用したのは今回が初めてである。3 月に東京本社での全社研修は別途行っているが、4 月以降の入社後研修に関しては仙台独自で OJT での対応であった。
- ・ 今回の研修全体としてマイナスになるようなことはまったく無かったと思う。

2. 研修の内容に関して（受講者・研修担当者双方の意見の主要点）

（ビジネス基盤コース）

- ・ 「ほうれんそう」など基本動作を意識することが勉強になったと思う。
- ・ 意識的な部分を中心に全般に効果的だったと思う。
- ・ 「経営活動と IT 化プロセス」といった内容は学校では聞けないので、初めて聞く内容ではあったと思うが業界のイメージを一通り網羅し学習できたという点で成果があったのではないかと。現場に入ってからこうした内容に触れる機会は限られるため、良かったと思う。

（IT 技術基盤（経験者）コース）

- ・ 研修内容では、特に Oracle や Linux をインストールから体験できたのが良かったと思う。実業務でも役立つもので、研修受講後の現場でもスムーズに作業ができています。
- ・ グループ演習では、集団行動に関して例えば自分から話をしないと仕事が進まない、といったコミュニケーションを体得できたことは最大の成果である。内容的にはもう少し手順的な内容、すなわち設計、作成、テストなど実業務に必要な流れを体得できるとより良かったと思う。

（ゲストセミナー）

- ・ 他社の社長や現場で活躍する SE の話などを聞けるのは有益だと思う。特に実務に入ってしまうとこうした話を聞く機会は限られると思うので研修でやる意味はあると思う。

3. MISA 教育のあり方に関する意見等

- ・ 従来はビジネスマナーを教育した後で、客先にも一年生として受け入れていただき、現場の OJT で教育を行ってきたが、MISA 研修で IT の実践技術やプロジェクト体験の機会を挟むことにより、失敗の許される（責任のない）範囲で一通り経験を積むことができる。
- ・ 特にコミュニケーション面は現場に活きると思う。研修後の OJT でも先輩の足かせにならずにコミュニケーションを取ることができる。
- ・ 研修では他社の受講者との交流も大きい。業界は狭く、おそらく仙台で今後一緒に仕事をするあるいは何らかの形で会う機会もあると思うので、そうした交流のきっかけを形成する上でも研修は有意義ではないか。

4. 来年度の研修への提案

- ・ 今の時点（ある程度実務に入って期間の過ぎた時点）で振り返ってみてのフォロー的なものがあればいいのではないかと。
- ・ 最後は実務の中で責任ある形で自分なりの型をつくっていくことになると思うが、他の受講者との情報交換などができれば自らに対するフィードバックも大きいと思う。

- ・ 将来的には縦のつながりも重要と思う。感想や報告、あるいは勉強したことを取りまとめたりすると共に、例えば来年度の受講者に対して先輩が昨年度はこうだった、といった交流会を開くなど交流できる場があればいいのではないか。

4 . 来年度の派遣予定について

- ・ 来年度は数名の採用を予定しており、今年度同様に MISA 研修に出したいと思っている。

<参考：今年度（2005）カリキュラム>

訓練科名：ビジネス基盤養成

| | | | | | |
|----|---------|---------|----------------------|---------------------|----------------|
| 日程 | 4月4日（月） | 4月5日（火） | 4月6日（水） | 4月7日（木） | 4月8日（金） |
| | ビジネスマナー | ビジネスマナー | ビジネススキル （文書・情報活用） | ビジネススキル （チームワーク） | プレゼンテーションと自己表現 |

| | | | | | |
|----|------------------|------------------|--|--|--|
| 日程 | 4月11日（月） | 4月12日（火） | | | |
| | 情報化の背景と 情報化企画 | 情報化の背景と 情報化企画 | | | |

訓練科名：ビジネス基盤養成

| | | | | | |
|----|---------|---------|------------------|------------------|----------------------|
| 日程 | 4月4日（月） | 4月5日（火） | 4月6日（水） | 4月7日（木） | 4月8日（金） |
| | ビジネスマナー | ビジネスマナー | 情報化の背景と 情報化企画 | 情報化の背景と 情報化企画 | ビジネススキル （文書・情報活用） |

| | | | | | |
|----|---------------------|--------------------|--|--|--|
| 日程 | 4月11日（月） | 4月12日（火） | | | |
| | ビジネススキル （チームワーク） | プレゼンテーション と自己表現 | | | |

訓練科名：IT 技術基盤（未経験者コース）

| | | | | | |
|----|--|--|-----------------|-----------------|-----------------|
| 日程 | | | 4月13日（水） | 4月14日（木） | 4月15日（金） |
| | | | プログラム開発 プロセス | アルゴリズムと C 言語 | アルゴリズムと C 言語 |

| | | | | | |
|----|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 日程 | 4月18日（月） | 4月19日（火） | 4月20日（水） | 4月21日（木） | 4月22日（金） |
| | アルゴリズムと C 言語 | アルゴリズムと C 言語 | アルゴリズムと C 言語 | アルゴリズムと C 言語 | アルゴリズムと C 言語 |

| | | | | | |
|----|-----------------|---------------|----------|------------------|--|
| 日程 | 4月25日（月） | 4月26日（火） | 4月27日（水） | 4月28日（木） | |
| | アルゴリズムと C 言語 | TCP/IP ネットワーク | RDB 入門 | DB 操作と SQL 言語 | |

| | | | | | |
|----|------------------|------------------|--------------------------|--------------------------|----------------|
| 日程 | 5月9日（月） | 5月10日（火） | 5月11日（水） | 5月12日（木） | 5月13日（金） |
| | DB 操作と SQL 言語 | DB 操作と SQL 言語 | Web 開発演習 （PHP & Perl） | Web 開発演習 （PHP & Perl） | Web/DB 連携プログラム |

訓練科名：IT 技術基盤（経験者コース）

| | | | | | |
|----|--|--|-----------------|-----------------|-----------------|
| 日程 | | | 4月13日（水） | 4月14日（木） | 4月15日（金） |
| | | | プログラム開発 プロセス | アルゴリズムと C 言語 | アルゴリズムと C 言語 |

| | | | | | |
|----|-----------------|-----------------|-----------------|--------------------|--------------------|
| 日程 | 4月18日（月） | 4月19日（火） | 4月20日（水） | 4月21日（木） | 4月22日（金） |
| | アルゴリズムと C 言語 | アルゴリズムと C 言語 | アルゴリズムと C 言語 | UNIX/TCP/IP ネットワーク | UNIX/TCP/IP ネットワーク |

| | | | | | |
|----|-----------|----------|----------|----------|--|
| 日程 | 4月25日(月) | 4月26日(火) | 4月27日(水) | 4月28日(木) | |
| | RDBとSQL言語 | データベース設計 | データベース設計 | データベース開発 | |

| | | | | | |
|----|----------|-----------------------|-----------------------|----------------|-----------|
| 日程 | 5月9日(月) | 5月10日(火) | 5月11日(水) | 5月12日(木) | 5月13日(金) |
| | データベース開発 | Web 開発演習 (PHP & Perl) | Web 開発演習 (PHP & Perl) | Web/DB 連携プログラム | 課題プログラム発表 |

訓練科名：オブジェクト指向開発

| | | | | | |
|----|------------------|------------------|------------------|--------------|--------------|
| 日程 | 5月16日(月) | 5月17日(火) | 5月18日(水) | 5月19日(木) | 5月20日(金) |
| | UML オブジェクト指向分析設計 | UML オブジェクト指向分析設計 | UML オブジェクト指向分析設計 | Java プログラミング | Java プログラミング |

| | | | | | |
|----|--------------|--------------|--------------|---------------|---------------|
| 日程 | 5月23日(月) | 5月24日(火) | 5月25日(水) | 5月26日(木) | 5月27日(金) |
| | Java プログラミング | Java プログラミング | Java プログラミング | Servlet & JSP | Servlet & JSP |

| | | | | | |
|----|---------------|---------------|----------------|----------------|-----------|
| 日程 | 5月30日(月) | 5月31日(火) | 6月1日(水) | 6月2日(木) | 6月3日(金) |
| | Servlet & JSP | Servlet & JSP | Java/DB Web 開発 | Java/DB Web 開発 | 課題プログラム発表 |

訓練科名：オブジェクト指向開発

| | | | | | |
|----|------------------|------------------|------------------|--------------|--------------|
| 日程 | 5月16日(月) | 5月17日(火) | 5月18日(水) | 5月19日(木) | 5月20日(金) |
| | UML オブジェクト指向分析設計 | UML オブジェクト指向分析設計 | UML オブジェクト指向分析設計 | Java プログラミング | Java プログラミング |

| | | | | | |
|----|--------------|--------------|--------------|---------------|---------------|
| 日程 | 5月23日(月) | 5月24日(火) | 5月25日(水) | 5月26日(木) | 5月27日(金) |
| | Java プログラミング | Java プログラミング | Java プログラミング | Servlet & JSP | Servlet & JSP |

| | | | | | |
|----|---------------|---------------|----------------|----------------|-----------|
| 日程 | 5月30日(月) | 5月31日(火) | 6月1日(水) | 6月2日(木) | 6月3日(金) |
| | Servlet & JSP | Servlet & JSP | Java/DB Web 開発 | Java/DB Web 開発 | 課題プログラム発表 |

<ゲストセミナー>

| | |
|-----------------------------------|---|
| ゲストセミナー 4/8(金) 16:30~17:30 | 「IT業界の動向と技術者に求められるもの」 (株)コミュニケーションテクノロジーズ(仙台市) 代表取締役 漆畑英司 氏 |
| ゲストセミナー 4/22(金) 16:30~17:30 | 「ベンダー資格とIT人材の動向」 日本オラクル(株)東北支社長 佐々木賢一 氏 |
| ゲストセミナー 5/20(金) 16:30~17:30 | カメイ・システムハウス(株)(仙台市) システム開発部 ITビジネス課長 小野桂二 氏 |